

お知らせ文書 (No. 2022-1)
 <DSU ; No. 311掲載予定>

株式会社 三恵薬品

使用上の注意事項改訂のお知らせ

制酸・緩下剤

日本薬局方

酸化マグネシウム

<重質酸化マグネシウム「三恵」>

謹啓 平素は弊社製品をご愛用賜り、有り難く厚く御礼申し上げます。

このたび、標記製品につきまして、下記の通り使用上の注意事項を改訂いたしましたので、お知らせ申し上げます。

今後のご使用に際しましてご参照下さいますようお願い申し上げます。

敬具

記

改訂内容

改訂前			改訂後		
併用注意（併用に注意すること）			併用注意（併用に注意すること）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
テトラサイクリン系抗生物質 ・テトラサイクリン ・ミノサイクリン等 ニューキノロン系抗菌剤 ・シプロフロキサシン ・トスフロキサシン等 ビスホスホン酸塩系骨代謝改善剤 ・エチドロン酸二ナトリウム ・リセドロン酸ナトリウム等	これらの薬剤の吸収が低下し、効果が減弱するおそれがあるので、同時に服用させないなど注意すること。	マグネシウムと難溶性のキレートを形成し、薬剤の吸収が阻害される。	テトラサイクリン系抗生物質 ・テトラサイクリン ・ミノサイクリン等 ニューキノロン系抗菌剤 ・シプロフロキサシン ・トスフロキサシン等 ビスホスホン酸塩系骨代謝改善剤 ・エチドロン酸二ナトリウム ・リセドロン酸ナトリウム等 <u>抗ウイルス剤</u> ・ラルテグラビル ・エルビテグラビル ・コピシスタット・エムトリシタピン・テノホビルジソプロキシル fumarate 酸塩等	これらの薬剤の吸収が低下し、効果が減弱するおそれがあるので、同時に服用させないなど注意すること。	マグネシウムと難溶性のキレートを形成し、薬剤の吸収が阻害される。
セフジニル セフポドキシム プロキセチル ミコフェノール酸モフェチル デラビルジン ザルシタピン ペニシラミン		機序不明	セフジニル セフポドキシム プロキセチル ミコフェノール酸モフェチル デラビルジン ザルシタピン ペニシラミン		機序不明
アジスロマイシン セレコキシブ ロスバスタチン ラベプラゾール ガバペンチン	(省略)	(省略)	アジスロマイシン セレコキシブ ロスバスタチン ラベプラゾール ガバペンチン	変更なし	変更なし
ジギタリス製剤 (省略) 鉄剤 (省略)	(省略)	(省略)	ジギタリス製剤 (省略) 鉄剤 (省略)	変更なし	変更なし
ポリカルボフィルカルシウム	(省略)	(省略)	ポリカルボフィルカルシウム	変更なし	変更なし

改訂前			改訂後		
併用注意（併用に注意すること）			併用注意（併用に注意すること）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
高カリウム血症改善イオン交換樹脂製剤（省略）	（省略）	（省略）	高カリウム血症改善イオン交換樹脂製剤（省略）	変更なし	変更なし
活性型ビタミンD ₃ 製剤 ・アルファカルシドール ・カルシトリオール	高マグネシウム血症を起こすおそれがある。	マグネシウムの消化管吸収及び腎尿細管からの再吸収が促進するためと考えられる。	活性型ビタミンD ₃ 製剤 ・アルファカルシドール ・カルシトリオール等	高マグネシウム血症を起こすおそれがある。 <u>milk-alkali syndrome</u> （高カルシウム血症、高窒素血症、アルカローシス等）があらわれるおそれがあるので、観察を十分に行い、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。	マグネシウムの消化管吸収及び腎尿細管からの再吸収が促進するためと考えられる。 機序：代謝性アルカローシスが持続することにより、尿細管でのカルシウム再吸収が増加する。 危険因子：高カルシウム血症、代謝性アルカローシス、腎機能障害のある患者
大量の牛乳カルシウム製剤	（省略）	（省略）	大量の牛乳カルシウム製剤	変更なし	変更なし
ミソプロストール	（省略）	（省略）	ミソプロストール	変更なし	変更なし
記載なし	記載なし	記載なし	<u>リオシグアト</u>	本剤との併用によりリオシグアトの血中濃度が低下するおそれがある。本剤はリオシグアト投与後1時間以上経過してから服用させること。	消化管内pHの上昇によりリオシグアトのバイオアベイラビリティが低下する。
記載なし	記載なし	記載なし	<u>ロキサデュスタット、バダデュスタット</u>	これらの薬剤と併用した場合、これらの薬剤の作用が減弱するおそれがある。	機序不明
記載なし	記載なし	記載なし	<u>炭酸リチウム</u>	高マグネシウム血症を起こすおそれがある。	機序不明
記載なし	記載なし	記載なし	<u>H₂受容体拮抗薬</u> ・フェモチジン ・ラニチジン ・ラファチジン等 <u>プロトンポンプインヒビター</u> ・オメプラゾール ・ランソプラゾール ・エソメプラゾール等	本剤の緩下作用が減弱するおそれがある。	胃内のpH上昇により本剤の溶解度が低下するためと考えられる。

以上